

組織目標評価報告書（平成21年度）

部局名： 外国語教育センター

	組織目標	達成状況(成果)
教育	1. 英語教育再編事業の一環として、授業時間外の自主英語学習支援策を促進する。 2. 英語・初修外国語副専攻コースについて、履修希望者の円滑な学習が可能となる教育環境を整備する。 3. 異文化への理解を促進するため、留学生との交流事業および海外協定校との交流プログラムを実施する。	1. 授業時間外での英会話の場を提供し、学生の国際交流への関心を持たせる場として、イングリッシュ・カフェを開設した。カフェ主催の英会話レッスンや交流行事に多数(前期 約1550人; 後期 約2500人)の学生の参加を得ることができた。また、e-learning教材のALC NetAcademy2の利用方法説明会を実施し、自主学習支援を行った。 2. 英語系では、種別英語の履修希望科目のWEB登録を開始し、登録状況の改善が図られた。グループ・種別ごとに、習熟度に応じたクラス編成を行った。上級英語については、履修者数を調査し、平成22年度の各開講時間帯の開講数を一部変更した。また、一部のクラスの標準スコアを600点として、上位レベルの学生のニーズに対応することにした。初修外国語系では新入生に配布する「外国語教育センターパンフレット」に、各学部がどの語種をどの時間帯に受講出来るかを明示した一覧表を作ることによって学生の円滑な履修を可能にした。また同パンフレットに中級学習、副専攻選択に至る履修モデルを提示した。 3. 英語系では、本学学生と留学生との交流を通じた異文化理解を目的としたInternational Nightを実施した。初修外国語系では、第4回成均館大学校交流プログラムとして、8月に夏期韓国語研修に岡大生7名を成均館大学校へ引率、2月には11名の成均館大学生を招いた日本語・日本文化研修プログラムを主催し、同校との交流関係をさらに密なものとした。
		達成度: ④ 3 2 1
研究	1. 英語教育におけるe-ラーニングの効果的活用法に関する研究 2. 初修外国語各語種共通の教授法改善に関する研究を進め、特に教材について、その検証・開発を行う。	1. E-ラーニングの効果的活用法について検討し、Longman English Interactive を利用するAdvanced English E-Learning Pilot Project(仮称)を立ち上げることにした。「ALC NetAcademy2の進め方(学生用)」(改良版)リーフレットを、「Teacher Handbook 2010」とともに配布することにした。 2. 中級授業の弾力化柔軟化の一環として、教授法検討作業部会において、フランス語中級およびドイツ語中級の集中授業を、検定試験対策のみならず、文法知識ブラッシュアップの授業として位置づけることを決定し、シラバスにもその旨を明記した。また上記授業に際しては、検定試験対策用問題集を教材に使用する一方で、随時副教材として文法補助プリントを配布し、文法知識の定着に努めた。
		達成度: 4 ③ 2 1
センター業務	1. 共通外国語教育の立案・実施・改善に責任を持ち、全学的な観点から以下の業務を主導的に進める。 ① 共通外国語教育(大学院を含む)の実施計画策定とその遂行 ② 外国語教育FD活動の実施 ③ 国際交流・連携事業の実施 ④ 語学学習室および関連施設の管理・運営 ⑤ 言語・外国語文化に関する、地域社会との連携事業の実施 ⑥ 本学における外国語教育実施状況とその成果の広報 ⑦ 外国語教授法研究・異文化研究の推進と支援	①英語系初修外国語系ともに作業部会が中心となり、カリキュラムに基づく時間割の策定及びその実施に必要な業務を遂行した。大学院においては社会科学部文化科学研究科の共通科目として、英語ネイティブ教員による授業および基礎ドイツ語1、2を開講し、受講生の専門分野研究に関わる外国語運用能力の涵養に努めた。 ②英語系では、公開講座、特別公開講座、Teacher Development Workshop、My Share、ALC NetAcademy2の利用方法説明会を実施した。初修外国語系では教授法検討作業部会が中心となり、特に中級授業のあり方について検討を行い、学生のニーズ等に即した多様な授業を展開した。 ③国際交流事業として、英語系では、上述のInternational Nightを企画・実施し、初修外国語系では、上述の成均館大学校交流プログラムの実施に加えて、国際センター主催の「アジア・オセアニア国際シンポジウム」において成均館大学校との学生交流の実態についてプレゼンテーションを行った。 ④語学学習室運営部会が中心となり、語学演習室の設備改善、レイアウト変更及び施設利用希望調査を行った。 ⑤一般市民の聴講が可能な公開講座及び特別公開講座を実施して地域社会との連携に努めた。 ⑥年報及び外国語教育センターパンフレットを発行するとともに、随時、外国語教育センターのホームページを更新した。 ⑦英語系では、上述のFD活動の一環として教授法の研究を行った。初修外国語系では特別公開講座の企画と実施により、異文化研究の推進などを進めた。
		達成度: ④ 3 2 1
社会貢献	1. 外国語の学習を通して人と文化についての理解を深めるという視点から以下の業務を主体的に進める。 ① 一般市民に公開された講座や講演を実施する。 ② 英語を共通言語とする異文化理解のための公開行事を実施する。 2. 語学に関する外部の検定試験の実施を支援する。 3. 高校生などを対象に大学における英語授業を体験する機会を設ける。	1. ①英語系では、公開講座及び特別公開講座を実施し、初修外国語系では、「アジア・オセアニア国際シンポジウム」において、本学と成均館大学校との学生交流の実態およびその意義について発表した。 ②英語によるInternational Nightを一般公開行事として実施した。 2. 初修外国語系では、ドイツ語検定試験およびフランス語検定試験においては岡山試験会場責任者としての役割を果たし、韓国語能力試験においては本学での試験実施を支援した。 3. 英語系では、高大連携事業として、高校生のための大学講座・英語特別講座及びEnglish on Campusを実施した。また、個別の高校の大学訪問に対応し、英語のデモ授業を実施した。
		達成度: ④ 3 2 1
【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点を記載してください。 教育面では、イングリッシュ・カフェによる自主学習支援の促進など、組織目標を十分に達成した。全学センターとしての業務は多岐に及ぶが、今年度は十分にその役割を果たしたと考える。社会責任の項目に関しても、定例化している活動に加えて、開学60周年事業に合わせた行事を実施した。今後の課題としては、e-ラーニングの更なる利用改善を含め、センター改組に伴う自主学習支援体制の充実を図りたい。		

【達成度】 4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせて設定した領域・指標により修正してください。

[組織目標一覧へ](#)